子どもと緑が育つ番町・九段のまちづくり提案

木下　勇　教授
（社会情報学部　社会情報学科　環境情報学専攻）

千代田キャンパスの足元の番町・九段地区はマンション建設ラッシュにより、子育て世帯が増えているが、公園も少なく、子どもが育つ環境としては決して好ましい環境ではない。2022 年の大妻みちあそびに来ていた母親たちから、そんな相談を受けて、3 年生のゼミ学生の後期の実習にて、子育ての観点からの番町九談のまちづくり提案の作成にとりくんだ。それは唯一の都市公園であり、震災復興 52 小公園の一つでもある東郷公園を中心として、地域に多くみられる公開空地、あまり交通量が多くない区画道路をつなげて、子どもが遊び、キッチンカーの飲食などで勤労者、学生、住民も楽しむパークマネジメントを推進する提案であった。一方、母親たちは東郷公園でみんなの畑づくりを推進し、その実現にも協力してきた。このような地域とのつながりが 2023 年度の地域連携プロジェクトに申請した背景である。

そこで地域連携プロジェクトは 3 年生のゼミ活動の一環で「子どもと緑が育つ番町・九段のまちづくり提案」というまちづくり構想を地域連携で描くこととした。学生が地域を歩き、観察、インタビュー調査および文献収集等で情報を集め、地域の歴史、地域資源および人的資源を生かした、緑のネットワーク、子どもが遊び育つ環境づくりの提案にまとめる。また、提案のみではなく、それに向けたプレイスメイキングの社会実験を行う。とりわけ公開空地の魅力アップ、車交通量が多くない生活道路を一時的に子どもから高齢者までが楽しむ人間のための街路空間のあり方を社会実験のイベントとして、地元の関係団体と連携して行う。その過程で当該地域を子どもと緑が育つ住み続けられるまちづくりの構想づくりに多くの人の関心を呼び込むことを目的とした。

まず、2023 年度の大妻みちあそびの機会を借りて、3 年生の実習で提案してきた子育ての観点からの地域でのまちづくり提案の展示を行った。展示を見ていた住民から、展示の提案におおいに賛同の声、そしてこのみちあそびをもっと開催してほしい、という声に押されて、12 月初旬の土曜日に開催することとした。それは提案にあるように道路・敷地内公開空地をつなげる試みで、季節柄、クリスマスマルシェという名称で、子ども、多世代の人の交流の場としての試行である。

経緯を示すと以下のとおりである。

2023年

6月　学生の地域調査（観察・インタビューなど）からまちづくり提案。東郷公園みんなの畑の相談に応じる。

7月　企画会議　学生によるまちづくり提案中間段階の構想発表
7月22日の大妻みちあそびにて　プチ展示および情報収集
その場の地域の方々と12月2日にクリスマスマルシェ開催が発想

8月　クリスマスマルシェに向けて道路占用許可、使用許可申請で区役所と相談

9月　九段二丁目町会　縁日参加　（学生有志　2名参加）矢野さんにインタビュー

10月　東郷公園からの緑のネットワークまちづくり提案の構想づくり、

Edible Wayプレイスメイキング企画作業、
東郷公園からの緑のネットワークまちづくり提案のブラッシュアップ
12月2日開催予定とした「番九クリスマスマルシェ」に向けて地域と実行委員会発足
学生の環境情報と情報デザインの協働実習開始

12月　2日 番九クリスマスマルシェ開催、3日九段二丁目町会　餅つき行事に参加

2024年

1月　東郷公園からの緑のネットワークまちづくり提案　最終まとめ

3月　道と公開空地のネットワークまちづくり提案を千代田区みち・まちあそびシンポジウムで発表

なお、この地域連携プロジェクトは、社会情報学部情報デザイン専攻の磯山直也専任講師、家政学部児童学科の久保健太専任講師と協働した分野横断的な試行でもあり、またそれぞれの専門の特色も発揮された学生の働きもあった。さらに、地域のさまざまな団体の協力で行われた。

関連 HP：https://www.sis.otsuma.ac.jp/aid-lab/ChristmasMarche/2023/

なお、クリスマスマルシェの様子は東京ケーブルネットワーク取材放映の動画が公開された。

https://www.youtube.com/watch?v=r3QNCbv3GW8





